

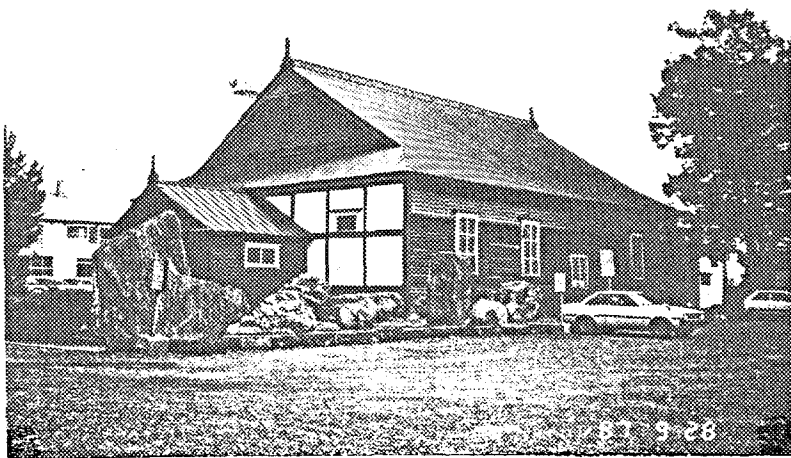
空知南組

組報

第 3 号

1987 . 11 . 1

発 行



紫雲山 願 王 寺 本 堂

(寺院紹介は 6 P)

(1987 . 9 . 28 撮 影)

△ 報因心講 △ 廿百 △



蓮教寺前住職 山崎善成

私は住職として46年間、各寺の報因講とおつきあいさせて頂いています。昔の報因講を想いますに、まずほとんどの法中が一晩泊まっていた。それは、今と違い、交通の便がよろしくなかった。泊まらなければならなかったと言ったほうがよいでしょう。私は三笠方面へはよく徒歩でお参りさせて頂きましたし、美唄の御住職は自転車で来られました。法中のなかには初日に来られ、二泊された方もおられたようです。

当時(昭和17年、18年)報因講寺院と言えは5、6ヶ寺のおつきあいで、どのお寺でもそのくらいの数だったのでないでしょう。御法礼は、各寺法中には3、5円、布教使様には7、10円くらいだったと記憶しています。そして、報因講になると押しかけ坊さんと言いましょか、風来坊さんと言いましょか、各寺の報因講を転々としてお手伝いして下さる方がきましたね。そう浅井さんもその一人です。その方にはお礼は2円くらいおつみしたと思います。

報因講の期間は今と同じ3日間でしたが、昔し長沼の誓報寺さんは4日間お勤めしていたんじゃないかな。布団なんて各寺にはあまり無かったので門徒さんは各自毛布持参でほとんど泊まりました。また門徒でない人もよく泊まっていましたよ。暖房といえば炭火でしたが、参詣者はどのお寺でも満堂でし

たので、お参りの人の熱気で寒さなんて感じられなかったね。ここ峰延より美唄までお参りに行く者もいたな。当時は年寄りだけでなく若い者も報因講を楽しみにしていました。今と違って体のいい老人会なんてなかったの、お寺へ来て人と会い人と話をするのが一番の楽しみだったのです。若い者も布教使さんの十八願のお話を聞いて、涙を流した人もいました。それから、報因講に寄った時、法中同士で梵唄、今で云えば声明を練習したものです。後夜のお勤めのあとに出動法中に説教をしてもらいました。朝の3時まで行うところもありましたよ。

節談説教は昭和30年頃まででしたでしょうか、高座で拝読していたのもその頃までだと思えます。御伝鈔も高座で拝読していましたし、その時は祖師前の外陣を移動させてね。また、屋台なども多く門前や境内に出ました。岩見沢の願王寺さんなんか門前屋台が素晴らしかったね。戦時中は物の無い時でしたが、ニンジン・ダイコン等でおとぎをしていました。参詣者も少なかつたけれど、報因講だけは続いています。

最近では参詣者の数が減って来たみたいだが、平生の教化活動によって参詣者は増えるはずですよ。終戦後はお寺で人と会うのが楽しみだった。人は寄り集まると言うものだから、それをお寺へ向ける努力をしたいものです。そして、人生の中で人に会うことの喜びを伝えて行く、それが宗祖親鸞聖人報因講ではないでしょうか。



賢誠寺住職 吉野 顕隆

この度、八月一日より「心のダイヤルお茶の間説法」というテレホン法話を開設しました。先般、南組々長杉田英明師より空南会へ常光寺住職杉田英隆師御逝去にあたり故人の伝道教化に対する厚い遺志を受け継ぎさせていただく様にて尊い浄財金二十万円を頂戴いたしました。会員一同にてその遺志を有難く受け相談の上テレホン法話を開設し、時代に即応した伝道教化として実のある生きた教材として活用させていただくことになりました。組内の諸先輩の先生たちが築かれた行動する青年僧侶の「空南会」現会員十六名が月三回、十日に一度それぞれが講師として原稿を書き、毎月一回の例会時に内容を検討し録音をするという方法で行っています。併せて、この機会に空南会の会員が、教學の研鑽をさせていただいております。

又、テレホン法話開設に際し、空南会ではポスター・葉書用宣伝文並びにステッカーを作成し、組内全寺院に配付させていただきました。おかげさまで組内の御寺院みなさまの御理解と御協力により八月一日から三十一日までのひと月間に、御門徒の皆様へ聞かれた回数七百回を超えました。いつでもどこでも電話で聞けるこのテレホン法話で浄土真宗のみ教えが弘まり明るく安らかな世の中を実現していく様に、努めさせていただきます。どうぞこれからも、御指導をお願いいたします。

合掌



☎ 0126-45-3000

新任住職 切畑 介

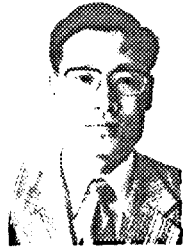
〔唯専寺住職 吉野 了乘〕



うで、責任の重さを感じています。どうか諸先輩諸氏のご指導で、鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

昨年七月二世住職継職五十年を機縁に退任され、その後を承けて三世住職を拝命しました。開教以来八十七年、説教所から寺院に開拓の辛苦の中で法城が築かれる今日に到ります。その間の先人住職寺族をして門信徒の方々の御苦勞が偲ばれ、心から深甚なる感謝を申し上げますにはおられません。尚、この度前任住職夫妻揃って元氣の中での継職をさせて頂きましたことは、一人の感激と有難いことでした。今後はこの法城を門信徒共々にお念仏相続し、一人でも多くの方が参詣して頂くよう努力いたさねばならないと思っております。特に今日は宗教法人としての寺院活動と運営がきびしくなり、その対応にも前向きに取り組んでゆかねばならなくなり、益々寺務も多忙になりそ

〔正瀧寺住職 久保田 一真〕



昨年秋、住職補任式にて辞令を頂戴して以来、新しい時代に生きる住職としての第一歩を踏み出しました。この一年法務を無事にすすめることができましたのも、各寺院の住職・若院の皆様温かい御厚情のお蔭と心から感謝しています。前任住職往生後、二十年間務めた教員を退職し、法灯を

継職しましたが先達の苦勞が身に染みます。美流渡は炭鉱閉山後、急速に過疎化がすすみ門信徒も各地に

散り減少の途を歩んでいます。自坊経営も、経済的に苦しいものがあります。門信徒の御協力を得て庫裡の改築をしました喜びも束の間、家殿の雨もり等難問難題をかかえています。夏は山菜採り、秋は熊のかけにおびえながら茸とりを楽しみにしているこの頃です。

向寒のみぎり御自愛の程を

合掌

〔常光寺住職 杉田 英明〕



昭和28年3月 童大を卒業しましたが、夏には肺結核で藝居生活小康を得るまでには六・七年の歳月が流れました。当時でも

結核は恐れられていたので私に対する先住職の失望や喜び等が偲ばれます。療養所生活中、姉は結婚しました。その義兄に当たる今の妻にご縁を得て、昭和36年に私は結婚しました。父の強い勧めで妻の顔を知らないまま事が進んだが、妻の実家の方もそんな様子であったらしく心配になった妻が、私の首調べ？に一人やっ来て来たことなども思い出されます。結婚後日曜学校を始めたが、父も又私達に家計や事務などを少しづつまかせ私も少しづつ社会的な生活に慣れていった。殊に栗沢の辰田師の後を承けた教区の教化指導主事の職に任じられたが、教区人に育てられた事も多く、心中感謝の思いや迷惑をかけた事に対しては、申し訳のない思い一人であります。本年正月、父が九十五歳で逝きました。が省みての実感(一)別れるまでど

報因講 各寺日程


こかにあった私の甘え心の反省(一)最後までその心配を払拂出来ず父の心を苦しめた痛み心であります。七月十一日、

住職補任式に上山して参りましたが、目の下目的は宗教法人常光寺の東明移転であります。非僧非俗と表現せられた宗祖

のご生活を願いつつ努力して行きたいと思っております。皆様、今後ともよろしくお願い致します。

9月	8月	8月	7月	6月
8・9日	3・4・5日	1・2日	29・30・31日	27・28日
法王寺	報恩寺	本向寺	蓮教寺	賢誠寺
			27・28日	
			26・27・28日	
			隆王寺	
			26・27・28日	
			廣大寺	
			22・23日	
			善照寺	
			25・26・27日	
			教覚寺	
			23日	
			願正寺	
			12・13日	
			静雲寺	
			6・7・8日	
			唯専寺	
			3・4日	
			西法寺	
			1・2日	
			萬行寺	

11月	10月
8・9・10日	17・18・19日
本覚寺	大安寺
6・7・8日	16・17・18日
正教寺	西本寺
3・4・5日	14・15・16日
願王寺	西願寺
1日	11・12・13日
朝信寺	妙華寺
	10・11日
	正灌寺
	8・9・10日
	善行寺
	1・2・3日
	証法寺
	1・2・3日
	信照寺
	2・3日
	常光寺
	9・10日
	本勝寺
	18日
	永福寺
	20・21日
	鶴林寺
	25・26・27日
	光明寺
	27・28・29日



(御消息自心披露)

本年一月十六日に発布されました「頭如宗主四百回忌法要・本願寺寺基京都移転四百年法要のご消息」の披露並びに伝達式が、五月二十九日午後一時より、岩見沢市願王寺の本堂に於いて執り行われました。式は、札幌別院輪番寺村顯智師によりご消息の披露が行われ、杉田英明組長にそのご消息が伝達されました。引き続き、御輪番がご消息のおこころと来るべきご法要の意義について説明され私たちに大きな期待が寄せられていることをお話し下さいました。

空知南組祖王守比族婦人協会創立三十周年

秋晴れの九月三十日十時より、奈井江町西本寺に於いて、過去十年間に逝去された御住職七名、寺族六名の方々の追悼法要が、導師藤堂西涯住職にて厳肅裡に執り行われました。引き続き記念式典があり、住職十二名、来賓北海道寺族婦人会連盟副会長二名、空知南組仏婦連協会長が列席され、教務所長寺村顕智師の記念講演「坊守のあり方」を聴聞しました。その後、会場を砂川市パークホテルに移し祝賀会が催され、終始和やかに懇親の場を得て、楽しく終宴しました。参加者四十五名は次回会合を約し、解散致しました。

組の動き

(青少年部)

◎仏青研修会が七月四日、サンプラザにおいて「命に学び、命を語る」をテーマに開催されました。参加者は二十名。講師は殿平善彦師。

◎七月三十日、寺院子弟三十三名がキグレサーカスを見に行きました。親子で楽しく過ごし、夏休みの良い思い出となりました。

(婦人部)

◎北ブロック仏婦大会が、五月十七日、歌志内市広大寺に於いて開催されました。参加者は百六十名。講師は響田大然師。

◎中ブロック仏婦大会が、七月二十日、三笠市真法寺に於いて開催されました。参加者は二百五十名。講師は響田大然師。

◎南ブロック仏婦大会が、六月十八日、由仁町本覚寺に

於いて開催されました。参加者は三百名。講師は札幌別院輪番寺村顕智師。

◎七月九日、さつき会開催講師に山崎潤子さんを迎え、くみひもの講習。会場は岩見沢市 ぽとり。

◎十月二十九日、峰延蓮教寺に於いて、仏婦連協研修会が行われました。講師は響田大然師。

(門信徒部)

◎仏汗研修会が七月十八日幌向本向寺に於いて開催されました。参加者は三十三名で差別問題について話し合いが行われました。

(僧侶部)

◎九月二十八・二十九日、僧侶研修会が登別・滝の家を会場に、開催されました。参加者は十六名。講師は西願寺住職西川宗一師で、「袈裟と衣の素材」についてのお話がありました。

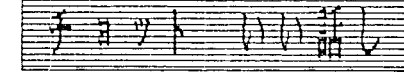
「キグレサーカスを見て」

茶志内 松山 教生(小五)

ぼくは、初めてサーカスを見ました。ぼくが、想像したのとはちょっとちがったけれど、すごくおもしろかった。ぼくが、とくにすごくおもしろかったのは、二、三台くらいのパイクが、ドームの中をぐるぐる回ったのが、おもしろかった。それに空中ブランコもすごくおもしろかった。でも、どれもすごくおもしろかったし、つなわたりもおもしろかった。それに二人のピエロも、いろいろけんかや、とりあいをしていて、すごくおもしろかった。いろいろなものがあったけれど、全部おもしろかった。またこんども見たいと思う。

☆十月二十三日からオランダで開かれるジャパンウィーク・フェスティバルに、奈井江西本寺若坊守藤堂達子様、長女はすき様が、琴演奏で出演されました音楽の親善使節として熱い期待が寄せられています。二十九日に帰国。

★志文静雲寺では、七月十三日昨年完成した庫裡の落慶法要が厳修されました。ますますのご発展を念じております。



♡栗山町唯専寺の長女、吉野 円(まどか)様が二月二十八日に得度されました。法名は円淨。初心忘るべからず、今後のご活躍期待しております

◇このほど南幌妙華寺の納骨堂が完成し、九月十二日に盛大に落慶法要が勤まりました。門信徒の喜びひとしおかと存じますおめでとうございます。

◆栗沢賢誠寺ではこのたび寺号立て看板を設置しました。これから設置されたい方、参考にされてはいかがでしょうか。

★空南会(吉野顕隆会長、会員十六名)一行十三名が、十月十四日札幌別院報因講の初夜に出動致しました。

♡奈井江西本寺坊守藤堂達子様が民生(児童)委員として昭和四十年より現在まで、社会福祉の増進に努められた功績により、町内女性としては初めての北海道社会貢献賞を受賞されました。

♡上砂川証法寺の樋浦芳彦様が、十月三十一日、住職補任式を授けられ上山されました。



◇11月21日 第九回連研・於願王寺。午後4寺より。

◇12月4日 空知南組門徒総代会並びに研修会・於栗山町唯専寺。午前10時半より。

◇12月中旬 空南会総会。

『寺内院初相入』

紫雲山 願工工主守

○開基・明治二十三年九月岩見沢村地域の開教を命ぜられる。同二十四年岩見沢村番外地に説教所を建立。

○移転・同二十五年正月南二番地十七号に移転。

○寺号公称・同三十二年二月十四日認許

○開基・家郷紫雲、二世・有為、三世・哲王

○同三十九年鏡如上人の御来教の知らせを記念に再度現在地に移転、末代所在地と定める。九月十二日洋風本堂・庫裡・鐘樓を落成。十月鏡如上人、御墓万寿子婦人会総裁と直往御来教。大正に入り

仏教婦人会鼓舞の為九條武子夫人御巡化になる。戦後管長代理大谷尊由台下御来教。ついで組内巡教の為勝如上人御巡回。

▼空南組の報因講も残りわずかとなりました。本号では蓮教寺老僧のお話をもとに「報因講今昔」という記事を掲載させて頂きました▼近年は参拝者の数も減り、年々簡素化されつつあるようです。老僧の御指摘どうり日頃の教化活動の大切さを思い知らされます▼本文はすべて新妻にワープロをうってもらいました。口だけ大将の私は何もせず命令だけするものですから組報がもとで喧嘩となることもしばしば。紙面を借りお詫びとお礼申し上げます▼聖人と妻の恩徳をしみじみ感ずる今日この頃です。(R・N)

組報未だ依託記

岩見沢光明寺住職藤沢法雄師が逝去されました。謹んで敬弔の意を表します。

我々老母年十一月一日 第... 発行所 空知南組 組報事務局